

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

若手が仕事や職場に求めるものは「成長実感」 川本裕子（人事院総裁）

1. 日本の若手が仕事や職場に求めるものは何かと問われれば、最近のキーワードは「成長実感」だ。そこで若者たちがイメージするのは専門的知識、スキルといった言葉だろう。他方、日本の組織ではマネジメントを学ぶ機会の不足、リーダーシップ教育を実施する時期の遅さ、研修の価値が軽く考えられる傾向がある。
2. メンバーが自分のイニシアティブで良いアイデアを練り、果敢にチャレンジができるようになればチームは強くなる。そのためには悪い情報でもすぐに共有し、率直に意見を言える心理的安全性の提供や、リスクを取る勇気ある行動を評価する目配りなどでリーダーが決定的な役割を果たすべきだ。
3. では、リーダーにはどんな資質が必要なのだろうか。まずはビジョンだ。広い視野を確保し、人との交流や読書を通じて日頃から考え抜く努力が求められる。次にインテグリティ（高潔さ）だ。常に誠実に行動し、嘘はつかずズルも絶対にしない。どのメンバーにも公平に対応する必要がある。こうした資質は若い頃から養うべきで、リベラルアーツを幅広く学ぶことも有効だろう。（参考：「日経ビジネス」2025年11月10日号）

経営者のための理念哲学

縄文時代から連綿と続く日本人の武士道精神 藤原正彦（お茶の水女子大学名誉教授）

1. 明治期の日本人の原動力となったものの一つに武士道精神があると思います。武士道精神の中核となる惻隠（そくいん）の情、誠実、正直、勇気、あるいは卑怯を憎む心。これらが江戸時代には町民や農民の間にも広がっていった。浄瑠璃にしても歌舞伎にしても講談にしても、武士道精神が出てきます。教育の場では藩校や寺子屋が儒教をベースとして人としてのあり方を教えました。つまり、文明開化の前から日本人にはそういう高度な精神性が身につけていたわけです。
2. この武士道精神のルーツは鎌倉武士と言う人もいますが、惻隠、誠実、正直、勇気といったものは縄文時代から連綿と続く日本人の美德であり、それが江戸時代にすべての人たちに浸透して明治になって開花していきました。日本人は他のどの国よりも道徳的に秀（ひい）でて品格が備わっていたからこそ、たとえ農民出身の兵士であったとしても大いに武士道精神を発揮し、日清・日露戦争などを戦い抜けたのだと思います。

（参考：「致知」2026年2月）

新規成長分野

中国に偏在する「重希土類」を使わない磁石を開発

1. レアアースと切り離せない磁石の製造で、重希土類を使わない磁石を開発した企業がある。大手特殊鋼メーカーの大同特殊鋼（愛知県名古屋市）だ。ネオジム磁石の開発者として毎年ノーベル賞候補に名が挙がる佐川真人氏を顧問に招き、ネオジム磁石の中でも「重希土類完全フリー」の磁石開発に磨きをかけてきた。
2. トランプ関税への対抗措置として中国がレアアースの輸出規制を強化した2025年4月以降、自動車部品を中心に重希土類完全フリー製品に対する注文や引き合いが増えているという。レアアースの中でも、世界中に広く分布する軽希土類と違って、重希土類は中国に偏在。日本の重希土類調達も中国に100%依存している。
3. 同社で重希土類完全フリー磁石の開発チームが発足したのは2009年頃のこと。中国が輸出規制をしたことで日本の産業界に動揺が走った10年のレアアースショック時より、少し前のことだ。もともと同社の磁石の製造プロセスは、重希土類完全フリーの領域で競合他社に対して優位性があり、強みが生かされたのだ。（参考：「週刊東洋経済」2025年11月15日号）

古典に学ぶ

「観世音」「観自在」は同じであること

1. 本当の經典の意味を知るために、自らインドまで旅した玄奘三蔵（げんじょうさんぞう）は、「観自在」の人だった。人の役に立ちたいと思う時、どちらの方法もあり、その時々で在り方を選ぶことができる。
2. 「観世音」、「観自在」、どちらも同じであることは、相手を助けたいという思いと、人と自分が持つ可能性を信じていること。

（参考：加藤朝胤監修「超訳 般若心経」：リベラル文庫）